

## 物流技術管理士資格認定講座 活躍事例と講義内容のご紹介

物流技術管理士資格認定講座は、物流管理者および物流技術者に必要とされる物流・ロジスティクスに関する専門知識やマネジメント技法を習得するための講座です。また、製造業、物流子会社、物流企業、情報システム関連など、講座を受講することで様々な業種、企業の方と交流を深め、ヒューマンネットワークの構築を支援いたします。

本頁では、本講座の受講者の方々が卒業後にどのように活躍されているのか、実際の事例に基づいてご紹介します。また、講座開講中に実施するグループ演習についても併せてご紹介いたします。

### 【受講後の活躍事例のご紹介】

#### ◆ケース①：自動車部品メーカー物流子会社A氏の場合

- 1) 受講者：A氏（海外事業部 課長 [※受講当時の役職は課長補佐]）
- 2) 担当業務：海外拠点における事業管理および顧客対応と拠点管理等
- 3) 受講後の取り組みについて

#### ・海外での物流業務に取り組まれたA氏

A氏は物流技術管理士資格認定講座を受講した数年後、海外にてアジアの新興国で機械部品を扱う物流センターの設計や立上げを担当することになりました。

#### ・海外では、物流に対する考え方は日本とは全く違う

コスト面の要請から日系の物流企業に業務委託できなかったA氏は、自社で物流の仕組みを構築することになりました。しかしながら、物流インフラや商習慣、環境も文化も異なる現地での取り組みは困難の連続でした。未発達な道路事情や、港湾、空港等で行われる煩雑な抜取検査、ラフハンドリングに耐えうる荷づくり等、日本とは異なる事案の対応にも追われました。

#### ・それでも日本と海外の物流の「基本」は同じ

A氏は日本と海外との違いに奮闘するその一方で、日本と共通する部分にも気付きました。それは「物流」の原理原則は万国共通であるということでした。「輸送・配送」「保管」「荷役」において目指すべき姿は国内外で共通しており、それは、国内で培った業務経験も通用するというものであります。その際、物流に関する広範な知識や技法を学んだ物流技術管理士資格認定講座の内容が非常に役に立つことになりました。

#### ・物流技術管理士資格認定講座のテキストはバイブル

物流技術管理士資格認定講座で学んだ体系的な知識と技法が収められたテキストは、現地での物流をどのように構築するかという課題に取り組む際のバイブルとして活躍しました。A氏は国内と異なる環境に苦勞しながらも、物流の基本を振り返りながら業務に取り組むことで、見事課題を解決されました。

## ◆ケース②：自動車部品メーカー X氏と総合物流企業Y氏の場合

- 1) 受講者：X氏（生産管理部 物流企画室 グループ長 [※受講当時は一般]）  
Y氏（営業センター係長 [※受講当時の役職は主任]）
- 2) 担当業務：X氏／国内拠点における輸送費管理業務、国内外物流改善業務の推進等  
Y氏／ロジスティクス営業（新規開発営業）
- 3) 受講後の取り組みについて

### ・講座で知り合った仲間とともに取り組んだ改革

X氏とY氏は、同時期に物流技術管理士資格認定講座を受講しました。X氏の会社はリーマンショック以降、生産量の落ち込みとともにトラック積載率が悪化する状況にありました。輸送管理を担当していたX氏は、輸送の仕組みそのものを見直す必要があるという難しい課題に直面していたのです。

### ・物流技術管理士講座で習得した知識の活用

X氏は本講座を受講しながら、効率的な輸送を実現する物流ネットワーク再構築の検討に着手しました。X氏は課題解決のヒントを得るべく、講座の受講者の方々と情報交換をする中で、総合物流企業のY氏から鉄道輸送の提案を受けます。それは、ある程度の物量がないと構造的にコスト高となってしまうトラック輸送から、少ない物量でも効率的な輸送が成立するという鉄道を利用した画期的なモーダルシフトの提案でした。

その提案に際し、Y氏はX氏の会社の物流実態をつかみ、それに見合った提案が必要であり、本講座で学んだメーカーの在庫管理やSCMの知識が役に立ったといいます。またリスクマネジメントの知識を活用し、鉄道輸送のリスクに対しては、トラックの併用や代替輸送の確保などの検討を行い、輸送の効率化と高い物流品質を両立させる提案を実現しました。

### ・仲間と連携して進めることで成し得た成果

Y氏の提案内容をもとにX氏はY氏と協働し、トラック輸送から鉄道によるモーダルシフトという新たな物流ネットワークの構築を推進しました。その結果、X氏の企業は高い物流品質を維持したまま、大幅なコスト削減とトラックによるCO<sub>2</sub>排出の削減を達成しました。この取り組みは、現在でも適用地区を拡大するなど、継続して行われています。

### ・物流技術管理士資格認定講座の人的ネットワークは財産

この物流改革は、X氏とY氏の講座での情報交流から始まりました。物流技術管理士資格認定講座で同じ専門知識と技法を学び、同じレベルの目線から相互の目的の共有や課題を検討することができたことは、この改革を実現するための大きな推進力となりました。

共に講座で学んだ高度な知識と技法を共有し、相互の情報交流の中で育まれる講座の仲間は良きビジネス・パートナーであり、それは講座を卒業してからも続く、物流技術管理士にとっての大きな財産となります。



講義風景

## 【カリキュラムよりグループ演習のご紹介】

物流技術管理士資格認定講座のカリキュラムは、プレミーティングと13の単元によって構成されています。基本的に座学中心のカリキュラムになっていますが、21日間の講義の中で、計4回のグループ演習があります。グループ演習では、座学による講義や個人演習と異なり、受講者が7～9名程度のグループに分かれ、メンバーが相互に意見を出し合い、検討しながらアウトプットを創出します。

### ・グループ演習のテーマ

講義の中で実施する4回のグループ演習では、それぞれ検討するテーマが異なります。初回のプレミーティングでは問題の発見や解決策立案について、KJ法などを活用しながら検討します。第5単元の拠点管理の単元では、倉庫のレイアウト含めた拠点設計を検討します。第7単元では総合演習①として、様々な手法を使った物流改善について、複数の演習課題に取り組みます。講座の講義内容の総まとめとなります最終単元の第13単元では、総合演習②として拠点管理におけるコストダウンに関するケースについて検討し、コスト削減プランを策定します。

### ・物流・ロジスティクスにおけるヒューマンネットワークの重要性

物流・ロジスティクスに関わる業務において、一人だけの取り組みで完遂する業務はほとんどありません。様々な立場の方と関わり、常に協力しながら業務を進めていかなければなりません。物流技術管理士資格認定講座のグループ演習では、業種や業界も異なる受講者が集まって議論を行います。議論の中で、自社や自社の属する業界とは全く異なる考え方や慣習、あるいは言葉を知ること多いでしょう。そうした中で議論を行うことは、受講者の皆さんが自身の業務に取り組む際に、自部門や自社

内だけの部分最適にとどまらない、全体最適を意識した業務につながります。

### ・受講者間のヒューマンネットワークの構築

また、グループ演習にて侃々諤々の議論を行うことで、きわめて深いヒューマンネットワークが構築されます。講座を卒業したあとも、グループメンバーでの交流を続けておられる方が多くいらっしゃいますし、前述の活躍事例のケース②でも取り上げましたとおり、中には実際のビジネスに発展することもあるようです。物流技術管理士資格認定講座は物流・ロジスティクスに関する知識や技法の習得だけではなく、濃密なヒューマンネットワークの構築にも寄与する講座です。是非ご活用ください。



グループによる討議風景

### ◆2013年度物流技術管理士資格認定講座開催状況（2013年9月1日現在）

開催期	開催地	開催状況
第102期	東京	開講中
第103期	大阪	開講中
第104期	東京	開講中
第105期	名古屋	9月5日(木)より開講
第106期	東京	9月9日(月)より開講
第107期	大阪	10月3日(木)より開講

講座の内容・受講に関するお問合せは以下までご連絡ください。

#### 【公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会】

人材教育部：TEL 03-3436-3191  
関西支部：TEL 06-4797-2070  
中部支部：TEL 052-588-3011